

第3回青果市場跡地まちづくり協議会を開催しました。

平成28年6月27日に第3回青果市場まちづくり協議会を開催しました。福岡市から、跡地活用の指針となる「青果市場跡地まちづくり構想」の策定に着手すること、その検討に際し、多様な意見を聞くため「青果市場跡地まちづくり構想委員会」を設置し、平成29年度上半期の構想策定を目指すことなどの報告がありました。

また、今後市で検討するまちづくり構想に反映してもらうため、昨年11月に行った「跡地利用に関するアンケート」及び2～3月に実施した「跡地利用を考えるワークショップ」において皆様から頂いた様々なご意見をもとに、市へ提案するまちづくりに関する提案書の作成を行いました。



まちづくり提案書を福岡市に提出しました！

8月9日に協議会の代表4名で福岡市役所を訪れ、「青果市場跡地のまちづくりに関する提案書」を提出しました。今後の跡地のまちづくりの検討に向け、地域住民の声を福岡市役所の光山住宅都市局長と棕野農林水産局長にしっかりと受け取っていただきました。

提案書の内容は右頁のとおりです。

第1回青果市場跡地まちづくり構想委員会に出席しました。

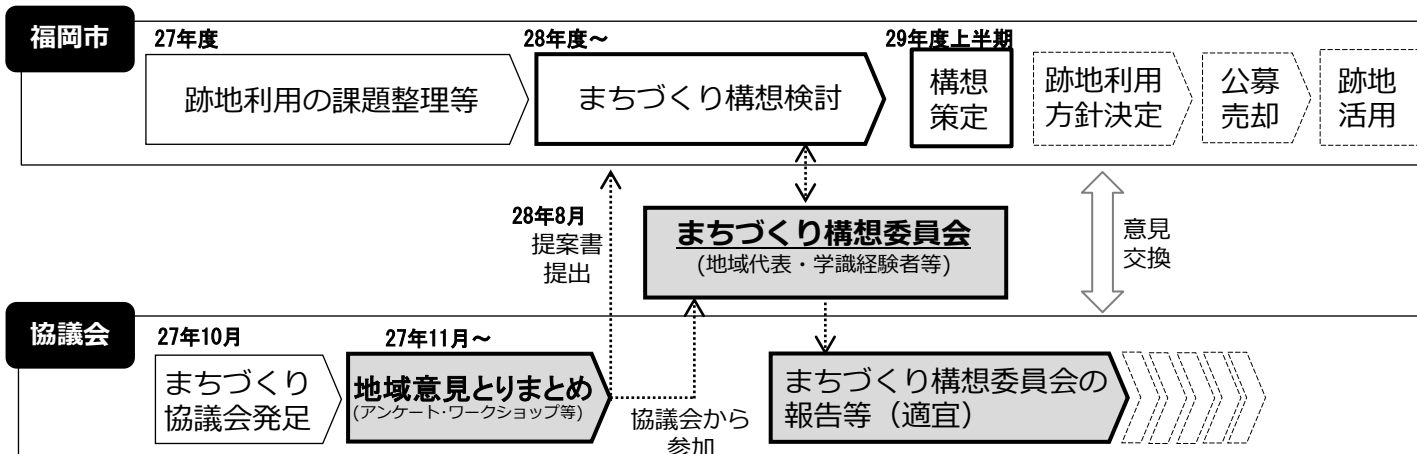
第1回青果市場跡地まちづくり構想委員会が9月1日に開かれ、まちづくり協議会からも4人の委員が出席しました。

市から、青果市場跡地の現状やそれを取り巻く状況など、広域的な視点や地域の特性、並びに地域からの提案について詳しく説明がなされた後、今後の検討に向け各委員から意見が出されました。

今後、委員の皆様とともに跡地のまちづくりについて考えていきたいと思っております。

なお、検討状況につきましては、適時お知らせしていきます。裏面に福岡市発行の委員会の概要を掲載していますのでご参照ください。

＜青果市場跡地まちづくりの進め方＞



福岡市長 高島 宗一郎 様

青果市場跡地まちづくり協議会

福岡市中央卸売市場青果市場跡地のまちづくりに関する提案書

福岡市中央卸売市場青果市場は、昭和43年、福岡市大字五十川の農地の一部に地域の全面的な協力のもと整備されたものであり、以来永年に亘り、地域の理解と協力のもと、その役割を果たされ、その功績は市民の認めるところであります。

今回、市場機能の強化を目的として、平成28年2月に東区アイランドシティへ統合移転されましたが、その跡地は非常に広大であり、地域の将来にとって重要かつ貴重な場所になると考えております。

青果市場跡地周辺は、縄文・弥生時代からの遺跡や那珂八幡古墳などの文化財も多数分布するなど、古代文化が栄えた地域であるとともに、跡地を含む一帯は、市場が整備された当時、田園風景が広がる自然豊かな土地でありました。

近年では、福岡市の発展とともに私たちが住む地域でも、住宅や店舗、工場等の開発が進み、人口も大幅に増加し、都市化しましたが、歴史や土地の記憶を大切にし、暮らしやすいまちを守ること、また、地域が将来にわたり健全に発展していくことが私たちの変わらぬ望みであります。このため、私たちは市場跡地の利用について、地域の意見を取りまとめることを目的として、平成27年10月に青果市場跡地まちづくり協議会を発足し、住民アンケートやワークショップを実施するなど、地域にとってより良い跡地利用について検討を進めてまいりました。

この度、協議会では地域で出された意見をもとに、今後の市での検討に際し、取り入れて頂きたい跡地利用の基本的な考え方についての提案書を取りまとめました。

つきましては、提案する内容について、青果市場跡地のまちづくりに反映されるよう、特段の配慮をお願いするとともに、できるだけ早期かつ着実に跡地利用が図られるよう検討を進めていただき、地域が愛着を持てる場となるよう、地域の意見も聞きながら、しっかりと検討して頂くようお願いするものであります。

住民アンケートや地域でのワークショップを通して、賛同する声が多かった意見は下記のとおりです。

- ・那珂中学校のグラウンドが非常に狭く、クラブ活動等において大変制約を受けていることから、小学校や中学校の児童生徒が気軽に運動でき、地域がイベント等でも利用できるまとまった広場や、災害時の緊急避難場所など多用途に活用できる空間等の確保
- ・今後も高齢化が進むことが予想されるため、医療や福祉など地域住民の福祉の向上や健康づくりに資するような施設
- ・にぎわい創出や地域住民の利便性の向上に資する施設、地域のシンボルとなるような施設
- ・福岡空港等との近接性を活かした国際的な魅力を備えた施設や空間
- ・地域の防犯機能の強化など、安全安心なまちづくりに資するような施設
- ・地域の雇用創出につながるような施設
- ・日照の確保や建物の高さなど、周辺の戸建て住宅地への配慮や緑化の促進
- ・周辺の幹線道路の交通量が多い地域であるため、交通環境への十分な配慮
- ・歩行者が安全に歩行できる空間が少ないため、歩行者への十分な配慮 (特に、歩道がない跡地北側及び南側道路における安全な歩行空間の確保)

上記の意見を踏まえ、跡地利用の基本的な考え方を次のとおり提案します。

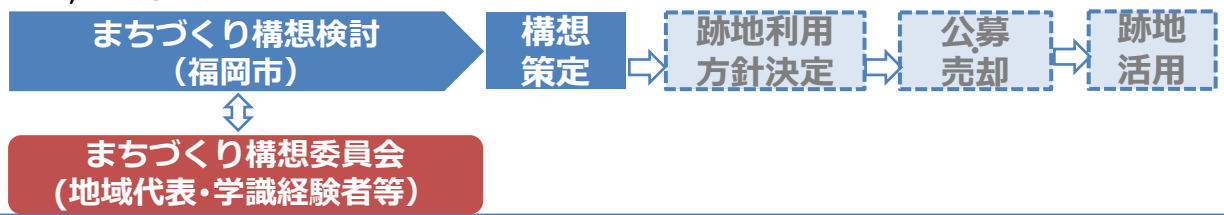
- ・地域をはじめ多くの市民が利用でき、多様な世代、多様な人々が交流し、憩える緑豊かでゆとりある空間づくりを目指すこと
- ・地域の利便性向上、活性化、また、安全安心なまちづくりに配慮し、地域住民も利用できるような公共的施設について検討すること
- ・周辺の住環境、交通渋滞及び交通安全などへ配慮しながら、地域に新たな魅力を付与する跡地の利用を検討すること

■青果市場跡地まちづくりだより

平成28年2月にアイランドシティに移転した青果市場跡地の活用に向け、福岡市では、今後の跡地活用の指針となる「まちづくり構想」の策定に着手しました。検討に際し、多様な観点からご意見をお聞きするため構想委員会を設置し、9月1日に第1回委員会を開催しました。
今後も、跡地活用に向けた検討状況などについて、お知らせしていきます。

1. まちづくり構想について

博多区の青果市場跡地は、約8.8haの敷地規模や広域交通拠点である福岡空港、博多駅と近接した立地などから、福岡市の魅力あるまちづくりに寄与できる場所であり、地域においても様々な跡地活用が期待される一方、敷地規模を踏まえると、交通や周辺環境への配慮など都市計画的な観点からの検討が必要です。
このため、福岡市では跡地活用の指針となる「青果市場跡地まちづくり構想」を平成29年度上半期に策定します。また、構想策定後は、公募の考え方を示す跡地利用方針を定め、公募要綱を作成し、公募・売却につなげていきます。

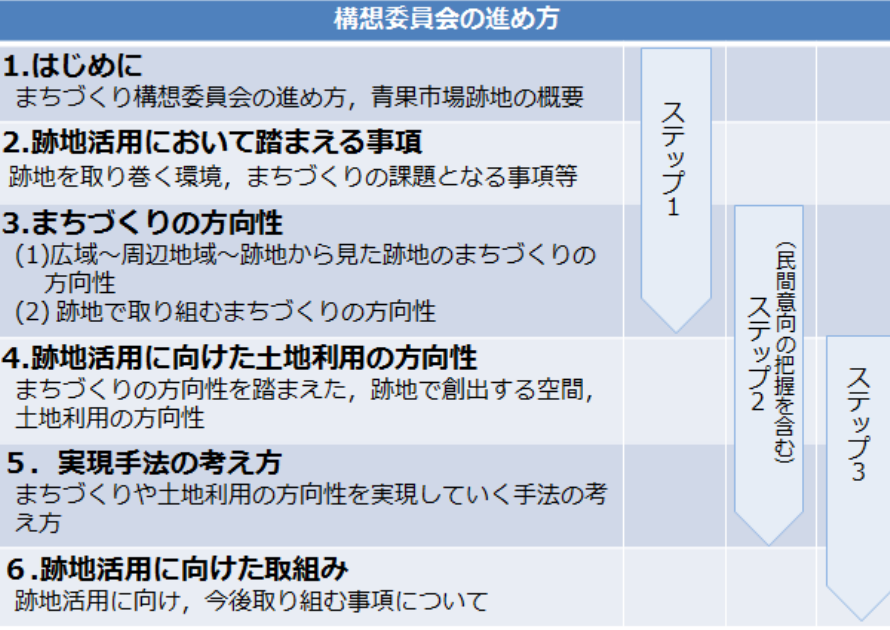


2. まちづくり構想委員会委員(11名)

氏名	役職名
川邊 哲	青果市場跡地まちづくり協議会会長 (那珂校区自治協議会会長)
富岡 仁子	青果市場跡地まちづくり協議会副会長 (弥生校区自治協議会副会長)
栗崎 博文	青果市場跡地まちづくり協議会副会長 (宮竹校区自治協議会副会長)
進藤 隆司	青果市場跡地まちづくり協議会 (五十川農事組合組合長)
田崎 克敏	竹下商店街振興組合理事長
朝廣 和夫	九州大学芸術工学研究院 環境デザイン部門 准教授(ランドスケープ)
黒瀬 重幸	福岡大学工学部 建築学科 教授(建築計画)
坂井 猛	九州大学大学院人間環境学府 工学部建築学科 教授(都市計画)
辰巳 浩	福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授(交通計画)
平田 エマ	九州経済調査会企画部次長
水木 祐一	日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長

3. まちづくり構想委員会の進め方について

各項目について、委員会で段階的にご意見を頂くとともに、市民意見の把握もしながらまちづくり構想をとりまとめていきます。



※第1回委員会において、委員長に黒瀬委員、副委員長に坂井委員を選出

4. 委員会の様子

第1回では、構想作りに際し、各委員から幅広くご意見を頂きました。(主な意見については右欄に記載しています。)



■委員会冒頭あいさつ (光山住宅都市局長) ■資料説明 (跡地について情報を共有しました)

◎当日の資料は、下記福岡市ホームページに掲載しています。

青果市場跡地のまちづくり 検索

福岡市ホームページ> 市政情報・市民参加> 交通・道路・都市整備> 都市整備> 青果市場跡地のまちづくりの検討について

http://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/atoti_keikaku/shisei/seika_atochi.html

5. 構想委員会での主なご意見

- (検討の進め方など)
- 跡地のブランディング、ポジティブなキーワードは、他のプロジェクトとの差別化としても大事
 - 地域のワークショップやアンケートでは現実的な話(例:生徒が運動できる広場,病院,憩える公園など)が多く、いい位置づけにある跡地の中であとに残るようなということ意見が聞いてきた
 - 地域住民がすべて納得いくようなものは難しいが、意見がこういう風に入ったな、というものをできるだけ残していければと思う
 - 地域の関心も高く、国際的魅力的な地域への活性化になるような検討をしていきたい
 - 売却が基本なので、地域の現実的な要望,市民サービス,市の財政などに寄与するためにどういう要件をそろえると民間が買やすいかを検討することが大事
 - 買う側の民間意向を早いうちにしっかりつかむことが大事
 - 時間をかけた審議は必要だが、早く跡地を有効活用し、新しい何かが見えてくることを望む

- (まちづくりの方向性など)
- 国際空港と大橋間に青果市場や竹下がある。大橋・竹下のまちづくりの歴史も踏まえ、南部広域拠点(大橋駅周辺)を含む南部地域としてどうするかという視点も大事
 - 周辺住宅地との関係をスケール感を持って整理することや、食品工場が多い特性をどう活かすかなど、周辺環境をおさえた取り組みが地域にうおいを与えることになる
 - 見えるようにする事は利用しやすさにつながり、閉鎖的であった空間を開いていくことは重要
 - 跡地利用をうまく活かし魅力ある都市は成長しており、グローバル・ローカルともに大事な場所敷地を一括でまとめて一つのコンセプトにもっていくことが極めて重要になる

- (都市機能など)
- 都心に近いポテンシャルのある土地であり、賑わいをなるべく創出すべき
 - 健康福祉、子どもたちの遊び場や環境教育、スポーツ、ドッグラン、都市部での農体験など
 - 敷地が大きくいろいろな機能の複合施設がイメージされる中で、コアになる機能が取れるとよい
 - 空港との近さ、工場見学の例も踏まえ短期的には観光客も寄れる体験型機能を入れてはどうか

- (ゆとりや憩いの空間・緑化・景観・防災など)
- 約8.8haの敷地を活かし、多目的に市民が憩える、プラス緑もあるという空間づくり
 - 公園などの緑と別の機能が共存するといいい。人通りも多くなるし、イベントのできる空間づくりや防災機能をあわせもつのもよいのではないかと
 - 今後何が起こるかかわからない中、災害時に有効かつ多目的に利用できる跡地であつたらいい
 - 周辺は低層建物が多く、ランドスケープの観点から、高さや景観などをどう考えるか

- (周辺施設との連携など)
- なるだけ公共交通を活用すべきであり竹下駅とどうつなぐかが重要。駅(線路)から見える、見せることを意識して開発につなげていくとよい
 - キャナルシティができたことで、中洲川端駅から商店街を通る人が増えたという事例もある

- (まちづくり上の課題など)
- 自動車利用の多い商業施設は大きすぎるものは難しく、住宅が増えると小学校の受け入れに影響が出る。これらの制約も考えながら、土地利用や施設について議論していく必要がある

6. 次回構想委員会について

次回構想委員会は、民間意向の把握に向けて、第1回委員会で頂いた意見を踏まえ、まちづくりの方向性の整理、交通容量を踏まえた土地利用のあり方、開発事例(観光等)等についてお示しし、ご意見を頂きたいと考えています。開催予定は平成28年11月頃です。

◎まちづくり構想委員会及び青果市場跡地のまちづくりについてのお問い合わせ
福岡市役所 住宅都市局 跡地活用推進部 計画課 担当 宮川, 浅野
電話711-4957 FAX733-5011 E-mail keikaku.HUPB@city.fukuoka.lg.jp